

東日本大震災復興まちづくりの調査を継続しています。仙台平野（仙台市～山元町）で進められている防災集団移転促進事業、復興土地区画事業の、4年8カ月後の現状を調査しました。

仙台平野は、仙台市から、名取市、岩沼市、亶理町を経て、福島県境の山元町に至る低平な沖積平野です。三陸リアス式海岸の地域とは異なり、逃げる高台がないため、基本的に多重防御と宅地の嵩上げにより、復興まちづくりが行われています。復興まちづくりの箇所数は、仙台市（13カ所）、名取市（3カ所）、岩沼市（4カ所）、亶理町（12カ所）、山元町（3カ所）です。規模は、5～50戸の小規模のものから、最大は名取市関上地区の1510戸です。復興の進捗状況は様ざま、平成26年度で移転が完了した地区もありますが、多くの地区は嵩上げ工事が進められており、竣工は5年後の平成33年度に予定されている地区もあります。最も優先されるべき、安全で安心な住まいの整備が立ち遅れていることは、今後の課題として、真摯に受け止めなければなりません。今回のペアリングニュースでは、被災地の現状を報告いたします。



津波襲来時の仙台市荒浜小学校。当時の川村校長の判断で、約200名の皆さんが避難した。仙台市の津波遺構として、保存が予定されている。



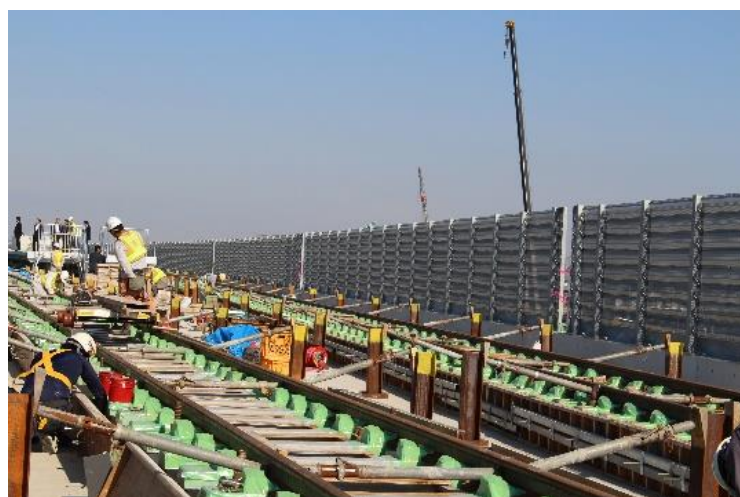
名取市関上地区。仙台平野で最も大規模な復興まちづくりが計画されている。工事は遅れており、現在、土地の嵩上げが行われており、竣工は平成30年度の予定。



岩沼市。多重防御の一つとして整備された千年希望の丘。玉浦西地区350戸の集団移転は、平成26年度に完成。玉浦西大樹公園集会所での意見交換会。



亶理町荒浜地区。漁港としての活気が戻ってきている。防災集団移転促進事業、災害公営住宅事業は、小規模分散型で入居が開始されている。豊かな干潟であった鳥の海は、防潮堤が建設され、海と遮断された。



山元町。コンパクトシティの理念のもとに、新山下駅周辺地区、宮城病院地区、新坂元駅周辺地区で復興まちづくりが行われている。大規模なイチゴファームの建設が進む。常磐線は、高架となり、やや内陸に移設され、工事が進められている。